

令和 4 年 第 6 回
富 山 県 教 育 委 員 会 会 議 録

I 開会及び閉会の日時

令和4年5月26日(木)

開会午後1時30分、閉会午後2時06分

II 場所

県庁4階大会議室

III 出席委員

1番	黒田 卓	2番	町野 利道	3番	村上 美也子
4番	坪池 宏	5番	大西 ゆかり	教育長	荻布 佳子

IV 説明出席者

教育次長	広沢 久也	教育次長	中崎 健志
教育企画課長	坂林 根則	生涯学習・文化財室長	吉田 学
教職員課長	板倉 由美子	県立学校課長	番留 幸雄
小中学校課長	水戸 英之	保健体育課長	大島 一恵

V 傍聴人数 1人

VI 会議の要旨

午後1時30分、教育長が開会を宣する。

1 会議録の承認について

令和4年4月25日開催の令和4年第5回富山県教育委員会会議録
会議録閲覧
荻布教育長から可否を諮ったところ、全員異議なく承認した。

2 報告事項

- (1) とやま科学オリンピック2022の開催について
教育企画課長より説明した。
- (2) 令和4年3月高等学校卒業者の就職状況について
- (3) 県立高校における「令和4年度 三つの方針(スクール・ポリシー)」の公表について
県立学校課長より説明した。

3 今後の教育委員会等の日程について

教育企画課主幹より説明した。

4 議事

○報告事項(2)関係

〔村上委員〕

・卒業生の就職状況については、毎年学校や企業の努力と連携によって高い就職率だが、去年もコロナでも大変だったと思う。その中で、本人の思いはあっても、就職したものの3か月とか半年で辞めてしまった生徒が例年に比べて多かったのかどうか、また、どの位の期間支援を続けているのか、個人個人で違うとは思いますが教えていただきたい。

〔県立学校課長〕

・いつまで支援するのは、一人ひとりの個人的な状況にもよると思うが、うまく連携をとり、就くまで声かけをしながら進めていくということである。

- ・離職の件についてですが、去年の状況はわからないが、3年後の離職率の推移はある。これは労働局の資料で3年後の離職率しかわからない。ちなみに平成29年は30.7%、その前は30.8%、その前は31.1%と、だいたい30%ぐらいを横ばいで推移しているということである。コロナによって去年、特に影響があったかどうかは今入手できないということである。

[教育長]

- ・29年卒が30.7%ということで、30.8%というのは何年卒なのか。

[県立学校課長]

- ・28年卒である。その前、27年卒が31.1%ということである。

[町野委員]

- ・辞めるのは、たとえば1年位で辞めるのは問題だが、3年だったら逆にいいのではないのか。特に最近と違って若い人が転職するのは、それはそれで正解だと私は思う。同じ会社で20歳から勤めていれば40歳過ぎになると異動をかけるのだが、40歳過ぎても一部署しか経験していない人間は、異動先から要らないと言われる。何部署かを経験している人間ならどうぞ来てくださいと言われる。いろんな経験をしてキャリアを積み上げていくということになると、ただ辞めたら駄目ではなく1年じゃ駄目だが何年か経てばいいという考え方が重要なと思う。

[教育長]

- ・確かに、同じところで勤めあげるだけが立派だという価値観からは世の中変わってきていると思うので、そのあたりもふまえて指導にあたっていきたいと思う。

○報告事項(3) 関係

[黒田委員]

- ・3つのポリシーについて、全校分が県のホームページで公開されるということで、かなり大変だと思う。課程・学科毎となると1つの学校で複数の学科があるところはそれだけ出てくるということで、横並びで見える形にもなり、いろいろと調整することになるのだと思うが、すごいなど。実は大学も10年位前から3つのポリシーについて大学全体及び各学部単位で示すことになっており、けっこう大変な思いをしながらまとめているので、どういう形で出てくるのか、見え方がすごく気になる。後から調整することもあるかもしれないが、うまく見えるようにしてほしい。

[県立学校課長]

- ・各学校では県より1日早くホームページでアップするが、県のホームページでは各学校名をクリックすれば見られる状態になる。

[黒田委員]

- ・各学校のホームページに飛ぶような形になるのか。

[県立学校課長]

- ・いえ、各学校名をクリックすると直接見えるようにした。各学校のホームページに飛ぶようにしても見える状況は同じなのでそういう形にした。各学校だけでという方法もあるが、国からもできれば各学校だけでなく県としても公表する形をとるようにということもある。近県等のホームページも見たが、そうした扱いにしている様子であり、慎重に検討した結果今回はこのように公表することにした。

[町野委員]

- ・こういう3つの目標というのは、各高校の評価制度も似ている。各学校でこういうものをどんどん作っていくと、結局出てくるのは平均値ばかりで突出したものが出てこない。国なのか教育をやっている人のせいなのかかわからないが、変わったものや違ったもの、異質なものがみんな潰されていく。これが心配である。なんでもかんでも平均化して面白くなくしている。結果として面白い生徒が出て来なくなってくる。そういうところをどういうふうにケアすればいいのか、私は解決策をもっているわけではないが、そういうことを考えながら、こういうものはやるべきだということを一言言うておく。

[教育長]

- ・他の学校のものを見てこうしなくては駄目だとかいうことではなく、各学校でいろいろ思索をし、何がその

学校の教育の強みなのか、課題なのかを考えてもらい、よりよいものを考えるという機会である。それを地域の皆さんに発信し、内容を問う機会だと思っているので、ご懸念の方向に行かないような配慮はしていきたい。

〔大西委員〕

- ・スクールポリシーについては、決定するのは校長先生ということになるのか。それは変わっていくものなのか。それともやはり方針ということでそれぞれの学校を特色づけて固定されていくものなのか。

〔県立学校課長〕

- ・最終的に決定するのは確かに校長ではあるが、当然各学校で作成のための委員会やチームを作って進める中で、学校によっては評議員の方であるとか、その中には地域の方も含まれていますし、保護者、あるいは場合によっては生徒の意見も聴きながら決定していく学校もあり、各学校それぞれである。また、タイトルにあるように令和4年度と書かれているが、学校によっては4月に校長も替わっているところもあり、新たなメンバーが今年1年これでいいのだと確認した上で公表ということになっている。当然、年度毎に見直しを図り、具体的な取組みについての記述も入ってくるので、修正なり改善なりしていくことになる。

〔大西委員〕

- ・こういうものが公表されることによって、今までは私たち保護者は高校を選ぶ時は偏差値から選ぶことが多かったのだが、私の長男が今年大学受験して大学に通っているが、大学のアドミッションポリシーを読んで、そこに興味を持って受検する学校を選んだということもあるので、同じ普通科であってもいろんな校風、特色がここで表れてくると思うので、是非楽しみに見られたらと思う。

〔教育長〕

- ・まさにそういうふうにご覧いただけたらと思っているところである。

○報告事項(1)関係

〔坪池委員〕

- ・科学オリンピックは本当にすばらしい取り組みで、特に作問委員の先生には敬意を表す。このコンテストが成功するかどうかは問題の質に関わっていると思う。まず、「子どもたちの科学に関する…」というところから、「科学的才能や論理的な思考力、問題解決能力」というフレーズだが、何かわかるようでわからない。それぞれ読み手によっていろんな解釈ができる感じがする。問題に、例えば思考力というのはこんなこと、論理的思考力というのはこんなこと、問題解決能力はこんなこと、ということが具体的なメッセージとして伝わる問題にしてもらいたい。具体的には、毎年同じような問題を作成していくとよいのではないかと思う。事前に過去問題を練習し、こういう問題が出るのだなと認識し、実際に受けてみてやはりそうだった、というような感じの問題にしていけば、過去問題を解く意味もあると思う。同じようなコンテストで思考大会があるが、1問目は必ず虫食いの問題が出る。どんなことを学んでほしいかというメッセージは非常に明確だと思う。ただ、この科学オリンピックの場合は、富山県のいろんなものを背景に、実生活とか社会生活を考えさせる問題ということで、このあたりがそうはなかなかしにくいだろうと思う。1つの題材だけで論理的思考力とか問題解決能力をみるということではなく、問題全体の中で地域について聞くアイデンティティの問題と、富山県が目指すべき資質能力というところを別に出題し、トータルでみてもいいのではないかと思う。それが作問委員の負担の軽減にもなると思っている。また、その問題をみた学校の教員が、今いろいろ問題解決能力といわれているが、授業の中でどうしていけばいいのかが分かるようなものになればいいのではないかと思っている。

〔教育企画課長〕

- ・今後、作問委員を中心として問題作成をしていくことになるが、今言っていた視点を中心に十分に取り込むような形にしていきたいと思っている。実際に作問委員をやった先生方からも、この科学オリンピックの問題を作ることで自分が非常に勉強になり、能力向上につながるという意見もいただいている。坪池委員から言っていたように、1つ1つの単なる問題という観点ではなく、この科学オリンピックの問題にチャレンジするということが子どもたちにとっていろんな能力の向上につながるような、そういうものになるようにしていきたいと考えている。

〔黒田委員〕

- ・科学オリンピックについては、毎年面白い問題を作っていると感心して見ている。高校部門は、数学と物理、化学、生物は入っているが地学は入っていない。作問している先生の問題とか、実際に履修している生徒が少ないということが入っていないのだと思うが、2人1組という形でチームを組み、まとまっているところもあるので、特定の教科に留まるような問題ではなく複数の、物理と化学両方とか、生物や地学まで含めて出題できるようになれば、もう少しこの科学オリンピックの趣旨である科学的解明や論理的な思考力、問題解決能力に迫れるのではないかと思ったが、やはり地学は難しいのか。

〔教育企画課長〕

- ・地学が含まれていないのは、県内の高校の中で地学を履修できる高校が実は多くないということもあり、理科は主要3科目でやっている。問題については、物理、化学、生物、それぞれの分野だけでなく科目を横断するような問題が、先ほど坪池委員からあったように、能力の向上につながっていくと思っている。作問委員の先生にはその点についても十分配慮して取り組んでほしいと考えているところである。

〔黒田委員〕

- ・高校部門もこの4分野のうちいずれかの1分野に取り組んでいくというより、今後は少し中学校部門に近いような書き方の方が幅広く科学を考え、捉えていくということにもなる。科学の甲子園につながっていくとなると、出題が難しいところがあるかもしれないが、教科の枠に捉われたものではないように見えた方がよいのではないかと思う。ご検討いただきたい。

〔教育企画課長〕

- ・書き方については、そういう点についても今後配慮をしていきたいと考えている。

○その他

〔大西委員〕

- ・昨日PTAの理事会があり、教育委員会の重点施策について説明いただいたが、教員の多忙化についての対策について、概要の中には「働き方改革」という記載があるが、令和4年度の重点施策の体系の一覧表には「働き方改革」と明記してなく、方針として無いように感じてしまう。他の役員から聞かれたので、いろんな分野、部活動や地域移行、スクールサポートスタッフなど、それぞれに分かれているのだと説明はしたが、やはり記載してないと、目が向いていないのではないかと、そこに気持ちが向いていないのではないかと感じてしまうという意見を聞いた。

〔教育長〕

- ・資料の発信の仕方がよくなかったのかと反省しているが、働き方改革、多忙化解消は喫緊の課題であり、小中学校においても高校においても、それぞれ頑張ってもらっている良い取り組みを横展開するための仕掛けを今年度準備しているので、そういうことも取り組んでいきたいと思う。また、部活動の指導体制の拡充や、スクールサポーター体制の取り組みなど、これから努力していくことについてPRしていきたい。

午後2時06分、議事が終了したので教育長が閉会を宣した。